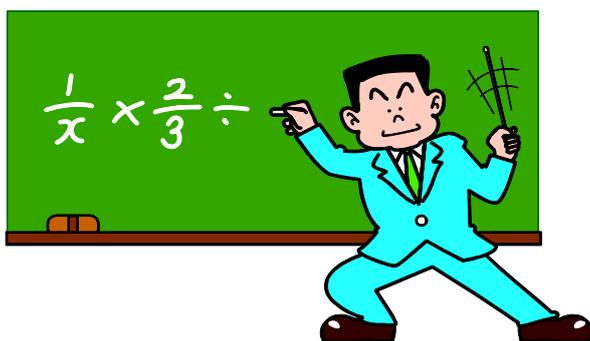


かどがわ家庭学習プラン

授業とつながる「家庭ドリル学習」の実践



ドリル学習に関する実態調査で、「家庭ドリル学習に取り組んでいるが、その効果が実感できない。」という割合が約50%もありました。先生と子どもが、「家庭ドリル学習」で、できるようになった、わかるようになったと実感できるためには、授業と「家庭ドリル学習」をつなぐ必要があります。授業と一体となった「家庭ドリル学習」を実践して、子ども一人一人の基礎・基本の定着に努めましょう。

ドリル学習の意義と効果

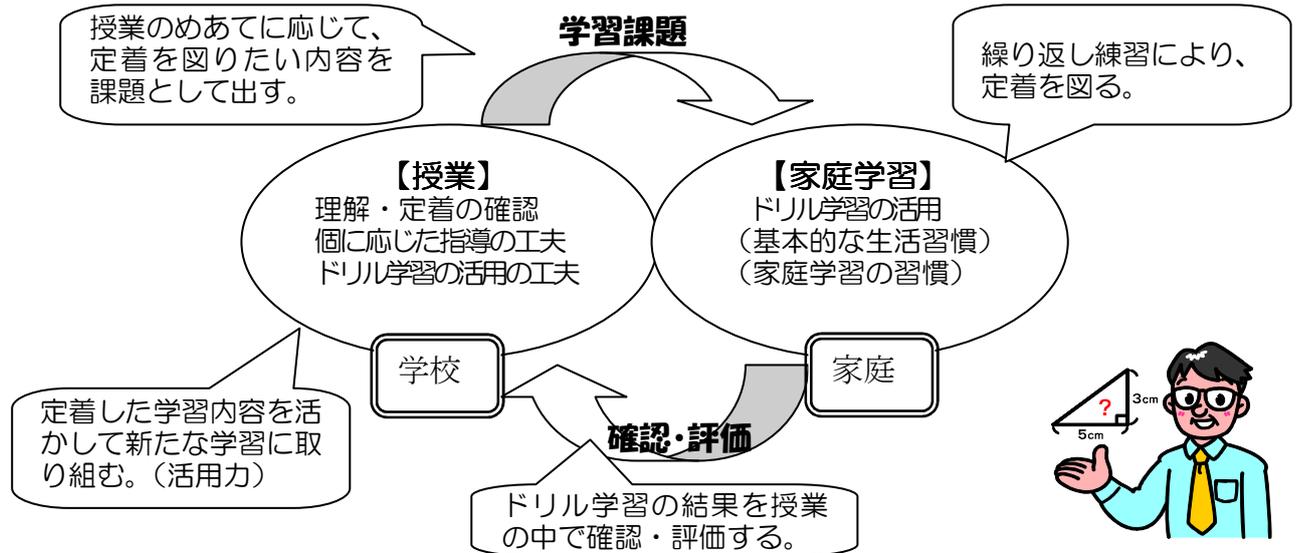


- 1 学習したことを繰り返し復習することで記憶が維持され、知識や技能の定着を図ることができます。
- 2 ドリル学習の一つとして、音読、百人一首やカルタ、簡単な計算に取り組むことにより脳が活性化され、学習効率が高まります。
- 3 ドリル学習の方法を身につけることにより、自己学習力が高まり、自ら進んで学習するようになります。
- 4 ドリル学習で定着した基礎・基本を活用して、さらに深化・発展的な学習を行うことができるようになります。(活用力の育成)

1 授業を核としてドリル学習に取り組もう。

アイデア

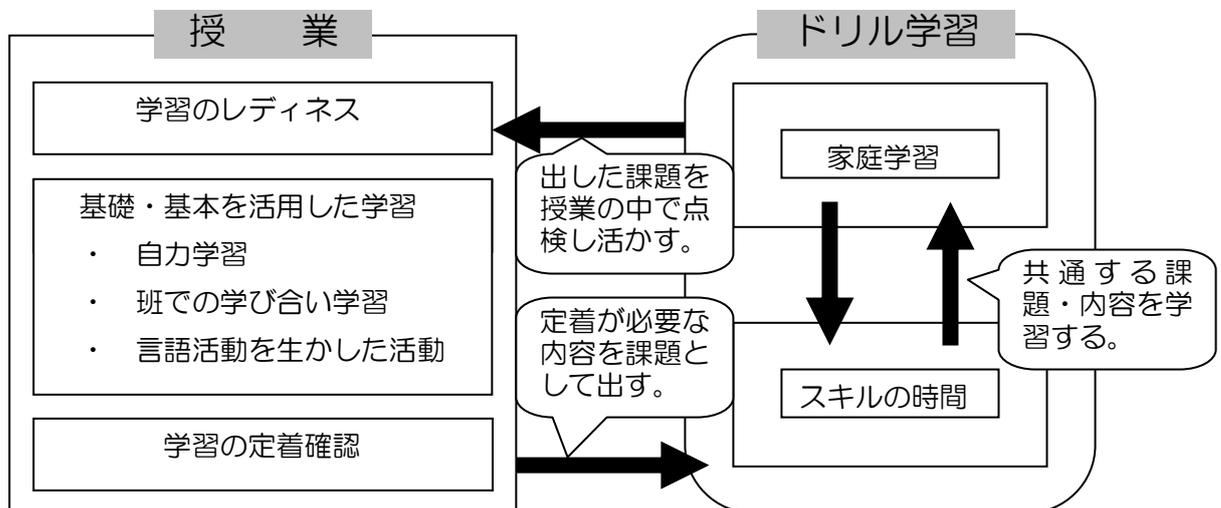
本時授業終末に理解・定着の確認を確実にし、家庭学習の課題とします。課題は、次時のレディネスで確認・説明などを行い、授業に生かします。また、課題は、朝自習やスキルの時間でも学習します。授業→家庭学習→スキルの時間といった学習サイクル（かどがわ学びのサイクル）で、自己学習力を育てましょう。



2 授業の終末で理解・定着させたい内容を確認する。

アイデア

本時授業終末に理解・定着の確認を確実にし、家庭学習の課題とします。課題は、次時のレディネスで確認・説明などを行い、授業に生かします。また、課題は、朝自習やスキルの時間でも学習します。授業→家庭学習→スキルの時間といった学習サイクル（かどがわ学びのサイクル）で、自己学習力を育てましょう。



3 家庭学習の内容と方法を具体的に指導する。

アイデア

本時学習のまとめから課題を出す時は、ページや問題番号、課題の範囲などの内容を具体的に指定し、学習方法を指導しておきましょう。このことが、将来、何をどのように学習すればよいのかといった、自学の力をつけることにつながります。

小学生用“かどがわ学びノート”

※日付を書きましょう。	※めあてを書きましょう。
《ドリル帳コーナー》	
ドリル帳を使って、授業と同じところの勉強をしよう。 できたら丸をつけて、まちがいをやり直そう。	
《授業の復習コーナー》	
今日授業で習ったことを、教科書やノートを見ながら、もう一度復習しよう。 できないところは、何回も書いて練習しよう。	
《くりかえしコーナー》	
今まで習ったことで大切な言葉や計算などをもう一度練習しよう。 苦手な教科を中心に勉強しよう。	
《がんばりコーナー》	
社会や理科などの勉強をしよう。辞書や資料で調べたことなどを書こう。	
※感想を書きましょう。	うちの人のサイン

中学生用“かどがわ学びノート”

※日付を書きましょう。	
《今日の授業の復習スペース》	
教科書やノート、授業で使う問題集やプリントを活用して、今日の授業で学んだことをしっかり復習しよう。	
《宿題（ドリル学習）スペース》	
宿題の問題集などをしよう。教科の問題集や授業の時にもらったプリントなどをしよう。	
《反復スペース》	
宿題（ドリル学習）や授業でわからなかったところを繰り返し書き込もう。	
《フリースペース》	
授業で使う教材を活用して、自分でまだ足りていないと思う学習をしよう。	

学習の内容や範囲を指定する

- 本時学習内容や深く関連する課題を出すようにする。
- 授業で使ったワークシートや小テストなどを課題として出す。
- 教科書やドリル帳・資料集などのページ・番号などを指定する。
- 課題に関連する基礎・基本内容を示す。（遅れがちの子のために）
- 発展学習ができる類似内容についても指導する。（進んでいる子のために）

学習方法を指導する

- 学習方法を具体的に指導する。
（例）
 - ・ 声に出して2回読む
 - ・ 重要語句を3回書く
 - ・ 大切なところに線を引き、書き出す。
 - ・ ○行を視写する・・・等
- ノートの使い方を指導する。
（“かどがわ学びノート”を参照）
- 目や耳、手や口などを使った学習ができるように工夫することを指示する。

4 学校や家庭でのドリル学習を評価する。

アイデア

学校や家庭でのドリル学習で、わかるようになった、できるようになったと実感することができるためには、ドリル学習による学力の伸びの評価やどれだけドリル学習を積み重ねてきたかなどの情報をしっかり伝えることが大切です。

学習の伸びを評価する

- 学習記録表などを使って、学習の伸びがわかるようにする。
- 各種テストの結果などを伝え、ドリル学習のポイントを指導する。

ドリル学習の積み重ねを伝える

- ドリル学習のプリントなどを整理させ、学習したことが量的に実感できるようにする。

5 家庭ドリル学習で家庭の協力を求め、連携を図る。

アイデア

家庭でのドリル学習を充実するためには、保護者の協力が欠かせません。小学校低学年では保護者による丸つけや採点、中学年や高学年では、保護者による点検が家庭でのドリル学習の効果を高めることにつながります。また、中学校でも、声かけや励ましなど、学年に応じた関わりを要請しましょう。

小学校での連携

- 低学年では、保護者に丸つけや採点の協力を依頼する。
- 中学年では、保護者に学習のチェックやサイン、コメントなどの協力を依頼する。
- 高学年では、保護者にサインやコメント、声かけや激励を依頼する。

中学校での連携

- 保護者に励ましやアドバイスなどの声かけ、経験を話すなどの協力を依頼する。



授業とつながるドリル学習の実践に取り組もう！

ここに紹介した「かどがわ家庭学習プラン」を、すべての学校で参考にして実践に取り組み、最重要課題である「確かな学力の向上」に努めましょう。

- 授業で100%理解・定着を図ることはなかなかできません。家庭学習を有効に活用して、基礎・基本の定着を図るようにしましょう。
- 授業を活かした家庭ドリル学習、不足部分を補強するスキルの時間など、目的を明確にしてドリル学習に取り組みましょう。
- 一人一人に学びのサイクルを意識させ、授業やスキルの時間の指導や家庭学習の指導に取り組みましょう。